

第18回日本認知症ケア学会大会 発表

題名；中鎖脂肪酸によるアルツハイマー型認知症の周辺症状改善効果の報告（第3報）
～表情を数値化して客観的に評価する～

氏名；増田洗司¹⁾、佐藤知栄実¹⁾、郡山裕子²⁾、前原惣一郎²⁾、鎌倉正俊²⁾、武谷克重²⁾、
加藤一彦³⁾、末満ひろみ³⁾、佐々木明子¹⁾、杉山妙¹⁾

所属；¹⁾日清オイリオグループ株式会社、²⁾ 医療法人社団広正会介護老人保健施設ソレイユカーマ、
³⁾医療法人彦仁会かとうクリニック

【目的】

アルツハイマー型認知症の方の食事に中鎖脂肪酸を取入れると BPSD 症状が改善し笑顔が増えた事例がある。表情変化の数値化を目的に、顔認証ソフトでの評価を介護施設ソレイユカーマで実施した。比較として介護者の主観的な目視評価も行い、併せ阿部式 BPSD 評価の実施で表情との相関を検討した。

【方法】

入所 10 か月以上 3 年未満の 70～90 代 女性 3 名を被験者として、中鎖脂肪酸油 6g が含まれるゼリー状食品を朝昼晩 1 日 3 回計 18g を食事に取り入れた。週 2 回、午後のレクとおやつ及び休憩時の被験者の表情をビデオカメラで撮影し、顔認証ソフト「オムロン株式会社製 画像センシング OKAO Vision 表情推定機能」による客観的観察及び施設スタッフによる阿部式 BPSD 評価と表情の主観的目視観察を行った。

【倫理的配慮】

倫理委員会の承認を得て、被験者・被験者ご家族及び施設長に研究趣旨を説明し、個人が特定されない方法での発表に文書にて同意を得た。

【結果】

中鎖脂肪酸の効果を発現前後に分け、顔認証ソフトの表情解析を実施した結果、1 名の笑顔出現頻度が増加した。レク時の効果発現前は平均 3.1%の笑顔出現率であったが、発現後は 4.1%と 3 割増加した。同様におやつ及び休憩時には、4.2%から 5.0%と 2 割増加した。施設スタッフの目視観察でも笑顔が増加し、阿部式 BPSD 評価でも中鎖脂肪酸摂食前は 2 点、摂食後は 4 点と一度上昇したが、その後 0 点、0 点と改善した。一方、その他の被験者の笑顔出現頻度は変化せず、施設スタッフの観察も同様の結果だった。阿部式 BPSD 評価も同様に改善は見られなかった。

【考察】

表情変化は顔認証ソフトの客観的な評価と施設スタッフの主観的な目視評価に同様の傾向が見られた。阿部式 BPSD 評価が改善した被験者は笑顔が増加した。表情変化の数値化は QOL 改善の指標として活用できる可能性がある。